

再 評 価 調 書

I 事業概要																																																																							
事業名	岡崎市八帖地区ほか大規模雨水処理施設整備事業計画																																																																						
地区名	早川・伊賀川流域																																																																						
事業箇所	愛知県岡崎市																																																																						
事業目的	既往最大降雨(平成20年8月末豪雨:103.5mm/hr)の降雨に対応するため、八帖雨水ポンプ場等のハード対策とソフト対策の実施により、床上浸水被害を解消することを目的とする。																																																																						
事業目標	【達成（主要）目標】 生命の保護の観点：当該排水区における床上浸水を防止する。 都市機能の確保の観点：第一次緊急輸送路における浸水被害を軽減する。 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。																																																																						
II 評価																																																																							
計画変更の推移		事業採択時	再評価時	変動要因の分析																																																																			
	事業期間	令和2年度～令和11年度	令和2年度～令和11年度																																																																				
	事業費（億円）	152	174	・物価の高騰																																																																			
	経費内訳	工事費 149	169																																																																				
		用地費・調査設計費 3	5																																																																				
	事業内容	・八帖雨水ポンプ場の増設 ・雨水管渠整備	・八帖雨水ポンプ場の増設 ・雨水管渠整備																																																																				
① 事業の必要性の変化																																																																							
1)	必要性の変化	【事業採択時の状況】 八帖地区は、区画整理事業により商工業施設及び住宅の集積が進み、一部の低地エリアに浸水が頻発する浸水常襲地区である。このため、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、早急な浸水対策が求められている。なお当地区は平成20年以降に9回の浸水実績があり、延べ床上浸水戸数は452戸、床下浸水戸数は698戸発生している。 【再評価時の状況】 令和2年から令和5年の間に超過降雨により3回の浸水実績があり、延べ床上浸水戸数は10戸、延べ床下浸水戸数は4戸発生している。また、気候変動に伴う降雨量の増大など、浸水リスクに対する要求が高まっている。 【変動要因の分析】 地形や建物の分布状況に大きな変化はない。																																																																					
	判定	B A：事業着手時(前回評価時)に比べ必要性が増大。 B：事業着手時(前回評価時)に比べ必要性にほとんど変化なし。 C：事業着手時(前回評価時)に比べ必要性が著しく低下。 【理由】 現時点においても地形や建物の分布状況に大きな変化はなく、浸水解消には地形的にポンプ場整備が不可欠な地域である。																																																																					
② 事業の進捗状況及び見込み																																																																							
1)	進捗状況	【事業計画及び実績】 単位：百万円 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 5%;">R2</th> <th style="width: 5%;">R3</th> <th style="width: 5%;">R4</th> <th style="width: 5%;">R5</th> <th style="width: 5%;">R6</th> <th style="width: 5%;">R7</th> <th style="width: 5%;">R8</th> <th style="width: 5%;">R9</th> <th style="width: 5%;">R10</th> <th style="width: 5%;">R11</th> <th style="width: 5%;">小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雨水管渠</td> <td>0</td> <td>253</td> <td>1,314</td> <td>2,390</td> <td>357</td> <td>943</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5,257</td> </tr> <tr> <td>八帖雨水ポンプ場</td> <td>79</td> <td>384</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>1,841</td> <td>1,190</td> <td>1,895</td> <td>2,110</td> <td>2,312</td> <td>2,346</td> <td>12,176</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>79</td> <td>637</td> <td>1,314</td> <td>2,409</td> <td>2,198</td> <td>2,133</td> <td>1,895</td> <td>2,110</td> <td>2,312</td> <td>2,346</td> <td>17,433</td> </tr> </tbody> </table> ※R5年度までは実績値、R6年度以降は計画値 【進捗率】 単位：百万円 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;"></th> <th colspan="3" style="width: 90%;">計画に対する達成状況</th> </tr> <tr> <th style="width: 30%;">計画 (①)</th> <th style="width: 30%;">実績 (②)</th> <th style="width: 30%;">達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雨水管渠</td> <td>5,257</td> <td>3,957</td> <td>75.3%</td> </tr> <tr> <td>八帖雨水ポンプ場</td> <td>12,176</td> <td>482</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17,433</td> <td>4,439</td> <td>25.5%</td> </tr> </tbody> </table> 【施工済みの内容】 ・ポンプ場の用地を取得済み ・雨水幹線（八帖北幹線は施工中）				R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	小計	雨水管渠	0	253	1,314	2,390	357	943	0	0	0	0	5,257	八帖雨水ポンプ場	79	384	0	19	1,841	1,190	1,895	2,110	2,312	2,346	12,176	計	79	637	1,314	2,409	2,198	2,133	1,895	2,110	2,312	2,346	17,433		計画に対する達成状況			計画 (①)	実績 (②)	達成率 (%)	雨水管渠	5,257	3,957	75.3%	八帖雨水ポンプ場	12,176	482	4.0%	合計	17,433	4,439	25.5%
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	小計																																																												
雨水管渠	0	253	1,314	2,390	357	943	0	0	0	0	5,257																																																												
八帖雨水ポンプ場	79	384	0	19	1,841	1,190	1,895	2,110	2,312	2,346	12,176																																																												
計	79	637	1,314	2,409	2,198	2,133	1,895	2,110	2,312	2,346	17,433																																																												
	計画に対する達成状況																																																																						
	計画 (①)	実績 (②)	達成率 (%)																																																																				
雨水管渠	5,257	3,957	75.3%																																																																				
八帖雨水ポンプ場	12,176	482	4.0%																																																																				
合計	17,433	4,439	25.5%																																																																				

②	2) 未着手 又は長期化の理由	無し																																										
	3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 関係者協議、建設費の増大、土質状況等 【今後の見込み】 概ね計画どおり進捗する見込みである。																																										
③	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化	判定	B A：事業は順調でありほぼ当初計画通り確実な完成が見込まれる。 B：事業は順調に進んできたが、得られた知見から計画の見直しが必要となる等、事業が長期化する。ただし計画見直しにより課題は解決できる見通しであり、今後は見直した計画通りの完成が見込まれる。 C：阻害要因（課題）の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。																																									
			【理由】 これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が想定されるものの、ほぼ計画通りの進捗が見込まれる。																																									
③	2) 貨幣価値化困難な効果の変化	判定	【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】 ・下水道事業における費用効果分析マニュアルの改訂 【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】 <table border="1" data-bbox="296 779 1254 1048"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事業採択時 (基準年：令和元年)</th> <th>再評価時 (基準年：令和6年)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">費用 (億円)</td> <td>建設費・改築更新費</td> <td>74</td> <td>59</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0.5</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地費</td> <td></td> <td>2.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>74</td> <td>62</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">効果 (億円)</td> <td>被害防止便益</td> <td>83</td> <td>78</td> <td></td> </tr> <tr> <td>残存価値</td> <td>5</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>89</td> <td>82</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果（B/C）</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区分		事業採択時 (基準年：令和元年)	再評価時 (基準年：令和6年)	備考	費用 (億円)	建設費・改築更新費	74	59		維持管理費	0.5	0.8		用地費		2.2		合計	74	62		効果 (億円)	被害防止便益	83	78		残存価値	5	4		合計	89	82		費用対効果分析結果（B/C）		1.2	1.3	
			区分		事業採択時 (基準年：令和元年)	再評価時 (基準年：令和6年)	備考																																					
費用 (億円)	建設費・改築更新費	74	59																																									
	維持管理費	0.5	0.8																																									
	用地費		2.2																																									
	合計	74	62																																									
効果 (億円)	被害防止便益	83	78																																									
	残存価値	5	4																																									
	合計	89	82																																									
費用対効果分析結果（B/C）		1.2	1.3																																									
【理由】 ※費用は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。 【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】 下水道事業における費用効果分析マニュアルを準拠（現在価値比較法（量－反応法）） 【変動要因の分析】 物価の高騰による建設費などの上昇を考慮																																												
③	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化	判定	【事業採択時の状況】 人身被害、ライフライン切断による波及被害、営業停止波及被害等が貨幣価値化困難だが、既往最大降雨（平成20年8月末豪雨：103.5mm/hr）の降雨に対応するため、八帖雨水ポンプ場建設等の事業を実施し、床上浸水被害を解消する。 【再評価時の状況】 大きな変化なし 【変動要因の分析】 変動なし																																									
			A A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。																																									
		【理由】 B/Cは、当初計画時とほぼ同様であり、1.0以上となったことから、十分な事業効果を期待できる。																																										

III 対応方針

継 続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定がある 継続：上記以外
------------	-----------------------------------

IV 事後評価実施の有無と主な評価内容

<p>■対象（事業完了後 5 年目） <input type="checkbox"/>対象外</p> <p>【主な評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・事業完了後、改めて事後評価を行う。・評価項目：事業費、整備進捗（遅れの有無）、B/C等

V 委員会の意見

--

VI 対応方針

--